

投稿の手引き

原稿

投稿原稿の本文は Word により作成する。図は TIFF または JPEG、表は Word または Excel 形式とし、本文とは別ファイルで提出する。本文、表は A4 サイズ、縦置きのパレイアウトを使用する。本文、表、要旨は、英文は Times New Roman、和文は明朝体等を使用し、12 ポイント 1 ページ 25 行程度の横書きとする。投稿原稿の本文は、全てのページ下余白に一連のページ番号を付け、左余白に一連の行番号を付ける。

構成

1 ページ目に和文表題 (英文論文の場合は不要)、和文著者名 (英文論文の場合は不要)、英文表題、英文著者名、所属名、ランニングタイトル (短縮表題) を、2 ページ目に英文要旨、キーワードを、3 ページ目以降に本文、図説明文を記載する。

表題

表題ではボールド (太字) を使用する。英文の主表題は、接続詞、冠詞および前置詞を除く主要な単語の頭文字のみ大文字、残りは小文字とし、副表題は、題名の最初の単語と固有名詞の頭文字のみ大文字、残りは小文字とする。また、表題の終わりにピリオドを付けない。なお、その他の体裁は本文の体裁 (4) から (7) のとおりとする。

著者名および所属名

英文の著者名は、姓以外の名前は頭文字のみ大文字、残りは小文字とし、姓は全て大文字とする。英文著者名は、著者が 2 名の場合は「and」でつなぎ、3 名以上の場合は「, 」でつないで最後の著者の前に「and」を入れる。和文著者名は、すべての著者を「・」でつなぐ。

連絡著者 (Corresponding author) のフルネームとメールアドレスを記載する。

【著者名の例 1】英文論文の場合

Gerald F. QUINITIO^{1),2)}, Akihiro TAKEMURA¹⁾ and Akira GOTO³⁾ *

* Corresponding author: Akira GOTO (example@fish.hokudai.ac.jp).

【著者名の例 2】和文論文の場合

布田 博敏¹⁾・原 彰彦²⁾*・山崎 文雄¹⁾

* 連絡著者: 原 彰彦 (example@fish.hokudai.ac.jp).

【所属名の例 1】英文論文の場合

¹⁾ *Laboratory of Aquaculture Biology, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*
(北海道大学大学院水産科学研究院増殖生物学分野)

²⁾ *Present address: Aquaculture Department, Southeast Asian Fisheries Development Center, Tigbauan, Iloilo 5021, Philippines*

³⁾ *Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*
(北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物学分野)

【所属名の例 2】和文論文の場合

- 1) 北海道大学大学院水産科学研究院増殖生物学分野
(*Laboratory of Aquaculture Biology, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*)
- 2) 北海道大学大学院水産科学研究院海洋生物学分野
(*Laboratory of Marine Biology and Biodiversity, Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University*)

ランニングタイトル (短縮表題)

ランニングタイトルは、著者姓を含めて英文 62 字、和文 30 字以内とする。著者が 2 名のときは英文では「&」で、和文では「・」でつなぎ、3 名以上のときは英文では Yoshida et al., 和文では斎藤らのように第二著者以降を略す。英文のランニングタイトルは、題名の最初の単語と固有名詞の頭文字のみ大文字、残りはすべて小文字とし、終わりにピリオドを付けない。

【ランニングタイトルの例 1】英文論文の場合 (コロンは半角)

Komai & Amaoka: Decapod crustacean from the Okhotsk coast

【ランニングタイトルの例 2】和文論文の場合 (コロンは全角)

布田ら：サクラマス血清の免疫グロブリン精製および定量

英文要旨およびキーワード

英文要旨 (Abstract) は、200 語以内で記載する。キーワードは英語で 3 から 10 個を選定する。キーワードは 1 個あたり 3 語以内で、最初の語に前置詞・冠詞を含まず、最後の語は単数形の名詞とする。また、キーワードを構成する各単語はすべて大文字ではじめる。

【キーワード例】

World revision, Zoogeography, *Oncorhynchus keta*, *Salvelinus*

本文の体裁

- (1) 和文中の句読点は「。」および「，」を使用する。
- (2) 本文の区分けは、大・中・小見出しを使用して明確にする。いずれの見出しのあとも、それに続く文章は行を変える。
大見出し：中央揃えにする。ボールドを使用し、番号は付けない。
中見出し・小見出し：左揃えにする。ボールドを使用し、原則として番号は付けない。番号を付ける必要のあるときは、アラビア数字とし、ピリオドを付ける。
- (3) 本文のパラグラフの先頭は、和文では全角スペース 1 文字、英文では TAB キー 1 文字を字下げする。字下げは Word のインデント機能または (英文に限り) TAB キーのいずれかを使用し、スペースキーを使用しない。
- (4) 動植物学名の属と種はイタリックを使用する。ただし、亜種の略語 *subsp.*, 変種の略語 *var.*などはイタリックにしない。
- (5) 和文中、動植物普通名 (和名)、そのほか特殊の語はカタカナで書く。
- (6) 英文中のラテン語はイタリックを使用する。ただし、*i.e.*, *e.g.*, *etc.*, *viz.*, *et al.* など一般的なラテン語の略語はイタリックにしない。
- (7) 物理量を表す記号にはイタリックを用いる。ベクトル量の記号にはボールドのイタリックを用いる。

単位

数量の単位は SI 単位を原則とする。

数式

式番号は各式の右端に (1), (2), ……のように通し番号を付ける。

図および表の引用

図および表は和文論文中においてもそれぞれ Fig. 1, Table 1 のように引用する。

文献の引用

文中で文献を引用するときは、著者名および出版年を括弧に入れる (英文引用のセミコロン, コンマは半角。和文引用のセミコロン, コンマは全角)。

【文献引用の例 1】 著者が 1 名の場合

…… have been reported (Tanaka, 1992; Yoshida, 1993).

According to Tanaka (1992) and Yoshida (1993), ……

……ことが報告されている (田中, 1992 ; 吉田, 1993)。

田中 (1992), 吉田 (1993) によれば……

【文献引用の例 2】 著者が 2 名の場合

…… have been reported (Arai and Inoue, 1992).

According to Arai and Inoue (1992), ……

……ことが報告されている (荒井・井上, 1992)。

荒井・井上 (1992) によれば……

【文献引用の例 3】 著者が 3 名以上の場合

…… have been reported (Ueno et al., 1993).

According to Ueno et al. (1993), ……

……ことが報告されている (上野ら, 1993)。

上野ら (1993) によれば……

脚注

脚注は多用せずに最小限にとどめる。脚注が必要なときは、関係する本文中の語に上付きで¹, ², ……のように脚注番号を付け、同じページの下段に線で区切り、その説明文を記載する。

図および写真

図番号は英文・和文いずれの論文中においても Fig. 1, Fig. 2, ……のように表す。写真も図として取り扱う。図の挿入希望位置を本文の右欄外に指定する。

表

表は1ページに1つずつ作成する。英文・和文いずれの論文中においても、Table 1, Table 2, …… のように表番号を付け、英文の説明文を付ける。説明文の最後にはピリオドを付ける。罫線の使用は最小限とし、特に縦の罫線は原則として使用しない。表の挿入希望位置を本文の右欄外に指定する。

引用文献

引用文献のリストは本文の最後一括して記載する。文献は番号を付けず、著者姓のアルファベットと発表年の順に並べる。同一著者の場合でも著者名は文献ごとに書く。DOI (Digital Object Identifier) が付与されている文献については、DOI を URL 形式で記載する。

英文論文にて英語以外の言語で書かれた文献を引用する場合、論文表題は英語に翻訳し、著者名や誌名、出版社名はローマ字化する。原文献の言語名を括弧に入れ、(in Japanese) や (in French with English abstract) のように注記する。

リストの文献の表し方は次のようにする (▬部分は半角スペース、□部分は全角スペースの意味)。

(1) 雑誌論文

① 洋雑誌

著者名 ▬ (発行年) ▬ 論文表題. ▬ 誌名 (イタリック), ▬ 巻 (ボールド, 号は省略), ▬ 通巻ページ. ▬ DOI

② 和雑誌

著者名 ▬ (発行年) □ 論文表題. 誌名, 巻 (ボールド, 号は省略), ▬ 通巻ページ. ▬ DOI

【引用文献リストの例 1】

Iwata, M., Komatsu, S., Collie, N.L., Nishioka, R.S. and Bern, H.A. (1987a) Ocular cataract and incomplete seawater adaptation in salmonids. *Aquaculture*, **66**, 315-317. [https://doi.org/10.1016/0044-8486\(87\)90116-5](https://doi.org/10.1016/0044-8486(87)90116-5)

Iwata, M., Nishioka, R.S. and Bern, H.A. (1987b) Whole animal transepithelial potential (TEP) of coho salmon during the parr-smolt transformation and effects of thyroxine, prolactin and hypophysectomy. *Fish Physiol. Biochem.*, **3**, 25-38. <https://doi.org/10.1007/BF02183991>

Amaoka, K. (1974) Studies on the larvae and juveniles of the sinistral flounders-V. *Arnoglossus tenuis*. *Japan. J. Ichthyol.*, **21**, 153-157. <https://doi.org/10.11369/jji1950.21.153>

朴容石・桜井泰憲・向井徹・飯田浩二・佐野典達 (1994) 飼育下におけるスケトウダラの繁殖行動に伴う鳴音. 日水誌, **60**, 467-472. <https://doi.org/10.2331/suisan.60.467>

(2) 巻がない雑誌論文

① 洋雑誌

著者名 ▬ (発行年) ▬ 論文表題. ▬ 誌名 (イタリック), ▬ (号) (カッコを付け, ボールド), ▬ ページ. ▬ DOI

② 和雑誌

著者名 ▬ (発行年) □ 論文表題. 誌名, (号) (カッコを付け, ボールド), ▬ ページ. ▬ DOI

【引用文献リストの例 2】

Maisey, J.G. (1986) Anatomical revision of the fossil shark *Hybodus fraasi* (Chondrichthyes: Elasmobranchii). *Am. Mus. Novit.*, (2857), 1-16.

高野和寛 (1992) マナマコ人工種苗生産技術について. 育てる漁業, (233), 1-10.

(3) 論文集の中の 1 論文

①洋書

著者名_(発行年)_論文表題_掲載ページ_論文集編者名_論文集表題 (イタリック)_発行機関_発行地.

②和書

著者名_(発行年)□論文表題. 掲載ページ, 論文集編者名, 論文集表題, 発行機関, 発行地.

【引用文献リストの例 3】

Eastman, S. and Jones, J. (1993) The deep-sea benthic ichthyofauna from the continental shelf of Japan. Pp. 215-219, Westman, T. and Jackson, S. (eds), *Zoogeography of deepsea fishes*, Smithsonian Press, Washington, D.C.

内海富士雄 (1965) ワレカラ科. Pp. 578-581, 岡田要・内田清之助・内田亨 (編), 新日本動物図鑑, 北隆館, 東京.

(4) 図書

①洋書

著者名_(発行年)_書名 (イタリック)_出版社_発行地.

②和書

著者名_(発行年)□書名. 出版社, 発行地.

【引用文献リストの例 4】

Maruyama, M. (1994) *Fishes of the north Pacific* (in Japanese). Hokuryukan, Hakodate.

農林統計協会 (1999) 図説漁業白書 (平成 10 年度版). 農林統計協会, 東京.

図説明文

図説明文は和文論文においても英文とし、一括して図番号順に作成する。説明文の最後にピリオドを付ける。

【図説明文の例】

Figure Captions

Fig. 1. Map of Funka Bay and offshore, showing localities and contours of depth (m).

Fig. 2. Distribution of sea bottom sediments in Funka Bay and offshore. ○: data from this study, ●: data from Hydrographic Department, Maritime Safety Agency, Japan (1981).

電子付録 (Supplemental Information)

電子付録は、論文に関連する動画や音声、あるいは報文に掲載できなかったデータ、図、表の電子ファイルを当該論文の補足資料として北海道大学学術成果コレクション (以下、「HUSCAP」という。) 上で提供するものである。本文中には、「元データは電子付録 (Appendix A) に示した。」などのように、図表と同様にこれらの付録を引用する。

動画や音声は、Windows Media Player や Quick Time などのソフトウェアで再生可能なファイル形式 (動画は MPEG, MOV, AVI あるいは WMV など、音声は MP3, WAV など) で作成すること。データ、図、表は、Acrobat Reader, Word あるいは Excel 等のソフトで閲覧可能なファイル形式で作成すること。ファイルサイズは1ファイルにつき500MBを上限とし、これを超えるファイルサイズのものは予め相談すること。

これらの付録も投稿時に提出すること。提出されたファイルはファイル形式の変換および論文としてのレイアウトなしに、原則として提出された状態で HUSCAP にて提供される。

電子ファイルの名称

投稿原稿のファイル名は筆頭著者の姓ではじめ、次のとおりに構成を示す名称とする。

(著者名) Manuscript

(著者名) Fig_1

(著者名) Table_1

(著者名) Appendix_A

図および写真は図番号のファイル名を、表は表番号のファイル名をつける。電子付録は本文中の引用と対応したファイル名を付け、必要に応じて半角英数字で説明的なファイル名を続ける。電子付録のファイル名は、HUSCAP での提供に際して、原則として変更されない。

提出にあたって

原稿および所定の投稿票を電子メール添付等により、図書委員会 (図書担当 fish@lib.hokudai.ac.jp) に提出する。投稿票は北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部図書室のウェブサイト (<https://www.lib.hokudai.ac.jp/fish>) からダウンロードし、電子ファイルに必要な事項を記入すること。

校正

校正は二校まで著者が行う。校正は誤植を訂正するのが目的であるから字句の改変は避ける。